

近年、B 細胞の中に抑制性の機能をもつ制御性 B 細胞が存在することがわれわれや他のグループから報告され、その役割が注目を集めている。制御性 B 細胞は様々な疾患において重要な役割をもっており、有効な治療標的となることが期待できる。そこで、制御性 B 細胞による免疫抑制の分子メカニズムを解析するために、制御性 B 細胞のシグナル伝達機構に関する本研究を行った。本研究では、野生型 C57BL/6 マウスおよび C57BL/6 バックグラウンドの Cd19Cre^{+/+} マウス、Pten^{loxP/loxP} マウス、および μ MT マウスを使用し、*in vivo* の皮膚疾患モデルとして接触過敏反応の系を用いた。本研究では、マウスにおける新しい制御性 B 細胞サブセットである B1-B10 細胞を同定した。また、従来から報告されている MZ-B10 細胞と共通の細胞表面マーカーとして CD9 陽性 CD80 陽性の表現型を明らかにした。これらの制御性 B 細胞を標的とした新規 B 細胞療法についてさらに検討中であり、今後明らかにしていきたい。

B 細胞特異的 PTEN 欠損マウスにおいて見いだされた新しい制御性 B 細胞サブセットである「B1-B10 細胞」

